



# 森のなかま

2014年7月号  
NO. 75 (継続220号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明  
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

新たな装いで平成26年度かながわ森林インストラクターの会通常総会開催  
ボリュームアップした平成26年度会活動が始動！！

< 事務局長(副理事長) 竹島 明 3期 >

平成26年6月15日(日)、特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会通常総会が総勢194名(委任状を含む)の参加を得て開催されました。今回の総会は会場を「ユニコムプラザさがみはら」にただけではなく、運営も2部構成として、通常総会の議事に加え第2部としてベテランインストラクターによる講演を2題さしはさみ、親しみを持てる総会にするための試みをしました。

第1部の総会議案「平成25年度活動報告・決算」「平成26年度活動計画・予算」(案)については当日の議長柏倉紘氏(第4期)の議事運営のもと満場一致で採択をしていただき、26年度活動の晴れやかなスタートを切ることができました。



柏倉議長



総会風景



久保理事長

第2部は「私の認識」を10年以上120回にわたり会報に連載を頂いた3期高橋恒通氏による「私の認識終了と鳥について」、そして3期増子忠治氏には「森林インストラクターとは」をテーマに熱のこもった講演を頂きました。



高橋氏



増子氏

また本総会には公務ご多忙にもかかわらず神奈川県自然環境保全センター森林再生部長野口高様、主事星台司様、公益財団法人かながわトラストみどり財団みどり森林課長内海規様のご臨席をいただきました。紙面をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。



内海様



星様



野口様

今年度の活動にあたり会が掲げた方針は

- 1、県民参加の森林づくり活動や森林再生パートナー企業の活動を積極的に支援すると共に参加者から信頼される指導者の育成を目指す。
- 2、県行政およびその関連機関と更なる連携をはかり、水源環境の保全・再生に努めると共に、その啓発活動に積極的に参加する。
- 3、財政基盤の充実を図る。
- 4、会の活動情報を積極的に外部に発信する。

の4項目。これらの方針は各部・各部会の活動にリンクし会活動の前進が図られつつあります。今後のさらなる成果が期待されます。

議事終了後「平成25年度ネットワーク活動大賞」ならびに「感謝状」等の表彰が行われネットワーク活動大賞第1位9期小沢章男氏、ネットワーク活動大賞第2位12期西出健一氏、そして「私の認識」で長年会報に寄稿していただいた3期高橋恒通氏にそれぞれ表彰状、感謝状が贈呈されました。最後に会員の皆様の総会参加、運営協力に感謝申し上げながら、通常総会報告とさせていただきます。



表彰を受ける高橋氏

(写真撮影：広報 松本 保)



平成26年度 第2回ブラッシュアップ研修 「野外における応急処置法」(講義・実技)  
(公財)トラストみどり財団主催 5月18日(日)10:00~15:30、足柄合同庁舎

全国安全週間 7月1日~7月7日

### < 安全管理委員会 高橋 修 9期 >

今回のテーマは「緊急時の対応」であり、国際救急援助隊で各国の災害援助に参加された、『東海大学健康学部科学科講師 大山 太先生と2名の学生』により講義と実習がありました。冒頭から命と救急について何をなすべきかについて話が始まり、判断が難しい問題について、先生の経験よりすべき事の順番が解った研修でした。

一番大切なこと ⇒ 生きていること

#### ① 災害現場での安全確保の優先順位

・自分の安全>現場の安全>要救助者の安全

※自分が安全でないと他人は救えない。現場が安全でないと二次災害で自分も危ない。

※3.11で病院が被災し医者や看護師も患者を助けるために犠牲になった。しかし、その後、地域は無医村となり多くの人が医療を受けられない状況を作った。(色々な意見はあり、判断は難しいと思うが生きてることが重要と考える)

#### ② 災害時の救助優先順位 ・自分>仲間>要救助者

※まず自分。次に仲間を救い救助者を増やす。(親しい人で自分の作業に有利になる人)

#### ③ 災害時の治療の優先順位 ・生命>四肢>機能>美容

講義中の講師と学生



※生命を守るためには四肢を犠牲に、四肢を守るためには機能も犠牲に(脊髄損傷も)

### 生物は空気(酸素)を吸って生きている

・酸素の供給が止まれば5分から10分で危なくなる。

街中でも救急車が来るまで6分から7分はかかる。山ではそれ以上かかる。

・蜂に刺され、アナフィラキシー・ショックは数分で現れることがある。血圧の低下で吐き気をもよおし、唇や爪が白くなる現象が現れる。呼吸器の症状では気道が閉塞し窒息する。

※エビペン(アナフィラキシー補助治療剤 - アドレナリン自己注射薬)は処方箋で持つことができる。営林署等は申請し用意しているところがある。エビペンは緊急時の応急処置には有効。持っている人が被害にあった場合は、迷わず打つ。



エビペン注射のデモンストレーション

### 致命的 3徴

- ① 低体温(深部体温34℃以下)
- ② アンドーシス(酸血症:血漿が酸性になる)
- ③ 凝固異常(血が止まらなくなる)

低体温は対処できるが他は医療行為。低体温をさせないこと。(濡れた服は着替えさせる。) エマージェンシーシートは使えるアイテムである。

・防寒・目印・搬送用シート・傷の手当(三角巾の代わりになる)

### 搬送用 用具

危険な患者を安全な場所に搬送するための道具

- ① バックボード  
(脊髄損傷者を固定して搬送できる。  
但し、脊髄搬送は危険が伴うので安易には行わず、救急隊を待てれば動かさない。)
- ② スケッド・ストレッチャー  
(とにかく早く搬出する場合に使用。二次災害が想定される現場からの脱出)



脊髄損傷者の搬送

### 救急救命の必需品 (大山先生)

- ① ガムテープ(布)
- ② マジックペン
- ③ ナイフ
- ④ ブルーシート

(写真撮影: 高橋 修 氏 9期)



かながわ森林インストラクターの会は  
緑の募金の支援団体としても取組んでいます。  
全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

森林部会 平成26年度「**第一回竹林整備研修会**」

県立21世紀の森 マダケ展示林、5月11日(日)9時30分～15時、快晴、参加者30名

< 森林部会 小野 幸広 7期 >

当日は好天に恵れ講師に10期中元秀幸氏を迎え総勢30人の参加者となった。我々が体験する機会の少ない竹林整備を今年度第一回研修に設定、候補地を県立21世紀の森とし、3月25日に佐藤部会長と小野が現地を訪問して磯崎所長に要望、協議のうえ決定したものである。

予定箇所のマダケ展示林は2月の大雪で大量の竹が地上から1m前後で折れて倒伏し一部は沢側へ倒れ込み、著しく景観を損ねており出水時の鉄砲水の発生さえ懸念される惨状である。

当地は平成25年度から成長の森として整備、3月8日には第一回植樹会が開催され今後関係者の来訪も増えると思われ景観上からもその修復が急ぎ望まれることも選定の理由である。従って整備研修会として開催するが雪害の復旧も視野に入れた作業がメインとなる事も参加者に理解を求めての開催となった。すでに別団体の手で径路周辺はかなり整理されていたが、沢沿いや奥の平坦部はほぼ未着手である。講師による「竹林の整備」に関しての講話の後4班編成で作業を開始沢側は切断して手作業とロープで引き上げ平坦部分の材と同様に枝払いと玉切り後、夫々集積した。

対象面積と量の多さに時間延長で奮闘したが相当量の未整理部分が残った。



ミーティングと  
(写真はごく一部)



作業前の竹林  
作業後の竹林



沢からの引き上げ



整理作業



整理された経路

6月予定の第2回目の研修では道路沿いの景観の向上に重点を置きたいと考えている。

飲物の提供や竹鋸と剪定鋏の貸与等のご援助を頂いた21世紀の森様にお礼を申し上げます。

(写真撮影: 佐藤 武晴 氏 5期)



人も自然も  
いきいき **丹沢** 丹沢の自然再生に取り組む

丹沢大山自然再生委員会ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

## 自然観察部会 第77回森林探検訪 「 新緑の三廻部林道 やどりき水源林を訪ねる 」

5月17日(土)9時～15時、快晴、参加者58名

&lt; 自然観察部会 小池 哉 12期 &gt;

山笑う——。草木が萌え始めた明るい春の山を形容する俳句の季語の通り、寄周辺の山々は「萌黄」「若葉色」「浅緑」「萌葱色」「若草色」といったさまざまな緑色を織り成して、「第77回森林探検訪」の参加者58名ほかスタッフ全員を歓迎するかのようであった。

今日は、寄バス停を出発し中津川沿いにやどりき水源林を目指し、午後は三廻部林道を通って寄バス停に戻るコースである。

“花盛り”のウツギの仲間を中心に、テンナンショウの仲間が性転換することや受粉の仕組みについてなど、インストラクターそれぞれが準備してきた“話題”を披露した。

説明だけでなく参加者に実際に体験してもらうことも欠かせない。路傍に咲くスイバの花穂をルーペで観察した参加者からは「万華鏡を覗いているようだ」と感想が聞かれ、コバノタツナミの葉を実際に触った参加者は「ヒロードタツナミ」という別名に頷いていた。

森林探検訪は、植物の紹介だけでなく植物自然界に生き残るためのさまざまな仕組みや工夫をはじめとして、森林の働きや水源林の役割のほか、民俗や歴史から昔話、文学や映画など、説明する分野は幅広いものであると思っている。それだけに事前の勉強にも力が入るし、たいへん興味深いものとなる。

予定通り寄バス停に到着した参加者は、山歩きの心地よい疲労感とインストラクターのガイドに満足してくださったのか、表情は、笑っていた。



ウツギたち



オリエンテーション



三廻部林道

(写真撮影：松永 廣 氏 11期、小池)

## スタッフ

(公財)かながわトラストみどり財団：齋藤様、黒澤様、看護師 青木様

インストラクター：リーダー 赤崎⑫、黒澤⑧、内野⑨、小林保⑨、小林富⑩、杉崎恒⑩、松永⑪、小川⑬、長尾⑬、古館⑬、真部⑬、小池⑫

森のめぐみの掲載は、今月号はありません。来月号はあります。

森のめぐみ シリーズ

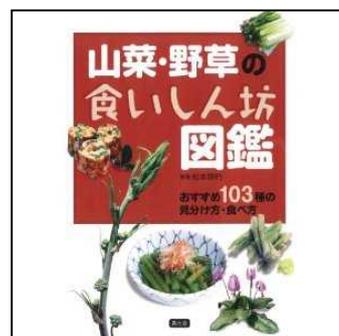


**本の紹介**

題名:「**山菜・野草の食いしん坊図鑑**」 < 紹介者 飯澤 恒 9期 >  
 編者:松本則行, 出版社:農文協, 価格:1836円(税込)

山菜大好きな、山菜ファンの方々に山菜料理の本を紹介します。おすすめ103種の山菜の見分け方・食べ方が写真入りで収録されています。お浸し、天麩羅は山菜の定番ですが、この本ではそれ以外の山菜を野菜と同じ食材とした料理方法を紹介しています。編者は野山の山菜の撮影、採ってきた山菜を料理し、撮影するのに1年半以上、執筆とその取りまとめに約半年、原稿から本の形になるまでに丸1年を費やしています。これほど山菜料理に拘った著作物は現在までのところ他には例が無いと思います。山菜の写真とそれを料理した写真を見ているだけでも充分楽しめます。

編者の松本さんは新潟県森林研究所に勤務していて、森本さん(5期)と飯澤さんが何年前かに筑波で山菜アドバイザーの合宿研修を受けた時の講師でもあります。4年前に林業の衰退で過疎・高齢化が進む山村振興の為に、換金作物としての山菜を活用するために色々な山菜の食べ方を収集して本として出版したいので協力して欲しいとの依頼がありましたので、郷里で多くの人達に教えて頂いた調理方法を整理して送りました。その直後、東日本大震災が発生し、諸事混乱していましたし、その後何の連絡も有りませんでしたので、この話は立ち消えになったものと思っていましたが、最近になって本を出版し共著者として名前を上げたので本を送るとの連絡を頂きました。大した協力もしていないのに共著として頂いたことに恐縮しましたが、この本で山菜好きな方が増え山村振興の一助になれば幸いと思い紹介します。本はアマゾンでも購入できます。



**お知らせ かながわ森林インストラの会 ホームページのリニューアル**

かながわ森林インストラクターの会外部向けホームページを全面リニューアルしました。森のなかま本誌も画面カラーでご覧いただけます。

URL: <http://www.forest-kanagawa.jp/>、または下記で検索ください。

かながわ森林インストラクターの会

ホームページは概して、一度作成するとなかなか更新が進まず、記事の内容も古くなり、結果として訪問者が少ないというのが一般的な傾向です。

そこで新ホームページは、ブログ、Facebook、Twitterなどのソーシャルメディアネットワークを活用して、新しい情報を間断なく発信することを目標にして構築しております。

- 画面展開例 (会報森のなかまへの)

最初の画面 ⇒ 「会報 森のなかま」 ⇒ 選択対象号へ

## 活動短信

今回の掲載は  
5月3日～6月4日です。  
投稿頂いた中には、寄稿タイ  
ミングや紙面の都合上、次号  
以降の掲載になるものもあり  
ます。

◆ 神奈川県庁・本庁舎公開イベント  
(グッズ販売)

- 日 5月3日(土・祭) 10:00～16:00、晴れ  
場 県庁・本庁舎(屋外)  
参 推定500名  
イ L米本②、森本⑤



GW中の県庁公開イベントに、県・森林再生課のご紹介により初めてグッズ販売で出店することが出来たもの。当日は、「ザよこはまパレード(国際仮装行列)」も近隣で開催されており、大賑わいの人出だった。

結果、36500円の売上(緑の募金1471円)となり、通常約2倍となった。

グッズ販売による出店力は、本会の大きな武器・財産に育ってきているものと思われる。改めて、グッズ・マイスターの皆さま方に多謝。

(記 森本 正信 5期)

(グッズ販売の米本さんと森本さん)



◆ 山菜採りと天ぷら・ヨモギ団子作り

- 日 5月3日(土) 8:00～13:00、晴れ  
場 小田原いこいの森  
参 一般応募者 32名  
主催 (公財)かながわトラストみどり財団  
スタッフ 小田原市森林組合 佐藤様  
イ L小沢⑨、白畑⑦、小川⑬、江頭⑬

当日8時より下見。採取山草の場所、生育状況を見ながら、ツタウルシ、足場の悪い場所等を確認しました。

連休中だったためか渋滞等で9時の集合時間には参加者がそろわず、少々遅れて森林組合佐藤様の挨拶で始まりました。インストラクターの紹介、班分け(4班)をして各自ビニール袋と山菜一覧表と飲み物を持ち摘み草に出発です。

参加者は家族で、友達と、またはお一人だと様々。お住まいも東京からはじめて、二宮の近くからリピーターですなどなど、4才の男の子から歳を重ねた方まで。まずは「ツタウルシ」を見ながら触らないよう説明をして、ウバユリ、ハナイカダ、ユキノシタ、タンポポの花、ヨモギ、フキ、ミツバ、サンショウ、フジの花等を採取しました。予定より遅れて参加された方々も途中より合流。

調理場で採取した山草を種類ごとに分け、昼食準備。ヨモギ白玉団子、山菜の天ぷらを参加者のこども、大人、インストラクター、職員の方々みんなで作りました。まず白玉団子(きな粉まぶし)を子供たち優先で提供。山菜の天ぷらはどれも好評、特にウバユリが一番人気でした。

山菜を摘みながら、花を見つけたり、生き物を見つけたり、子どもの目は輝いて好奇心いっぱいです。好天に恵まれたゴールデンウィークの一日でした。

(記 江頭 淑子 13期)

◆ 八王子市立石川中学校体験学習授業  
(事前講義)

- 日 4月28日(月) 14:25～15:15、晴れ  
場 八王子市立石川中学校(久保山町2丁目55番地)  
参 約220名:中学2年生210名、教師10名  
イ L 金森⑩(現地で保全活動を行っている宇津木台森遊会代表でもある)

5月9日(金)に予定されている八王子市立石川中学校2年生約200名の総合的な学習の時間を利用した体験

学習授業「八王子の身近な環境について知り、環境を守る活動をしている人々に学ぼう」にて、緑地の笹刈りと竹林の整備を予定している。

これに先立ち、事前の講義を行った。生徒の司会による初めの言葉、終わりの感謝の言葉などしっかりした進行だった。1時限(45分)にて次のような流れで説明した。

- 1.自己紹介 2.森のはたらき 3.八王子のみどり
- 4.森遊会の活動 5.体験学習の準備

(記 10期 金森 巖)

#### ◆ 八王子市立石川中学校体験学習授業 (体験実習)

日 5月9日(金)12:30~15:30、曇り

場 宇津木台緑地(東京都八王子市久保山町2-1)

参 206名:中学2年生196名、教師10名

スタッフ 八王子市公園課1名、  
緑地指定管理者ノースパーク1名、  
サポーター:オリンパス(株)スタッフ20名

イ L 金森⑩、小野⑦、白畑⑦、武者⑦、松本⑧、  
小沢⑨、村井⑨、青木⑩、中村⑪、江頭⑬、大原⑬、  
小川⑬、北村⑬、菌田⑬、長尾⑬、古舘⑬、松石⑬、  
水上⑬、溝田⑬、 研平田⑫

「八王子の身近な環境について知り、環境を守る活動をしている人々に学ぼう」にて、緑地の笹刈りと竹林の整備を実施した。

当日は大気不安定でスタッフ集合時はにわか雨が降り出し、オリエンテーションの頃には雷鳴や突風もあったが、作業の時間帯は晴れ間が現れ、実施することができた。

開会式では生徒代表が司会、現地で保全活動を行っている宇津木台森遊会代表(金森)の挨拶、インストラクターならびにオリンパススタッフの紹介、準備運動の後、道具を配布して現地へ向かう。

インストラクターの指導、オリンパススタッフサポートのもと作業は順調に進み、全生徒が何らかの作業に係ることで身近な緑について考える機会を提供できた。怪我もなく、集合場所に戻る。閉会式を行い、生徒代表からお礼の言葉をいただいた。

(記 10期 金森 巖)

#### ◆ 東京都立桜町高校

##### 高校生による奉仕活動 (植樹)

日 5月9日(金) 13:00~15:00、晴れ

場 鳥居原園地(宮ヶ瀬ダム)

参 高校生280名、教師 付き添い

スタッフ 宮ヶ瀬ダム周辺振興財団スタッフ

主催 (公財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団(依頼先)

イ L 島岡③、鈴木⑤、内野⑨、澤村⑫

12時集合、13時作業にボランティア活動に入る形態は余り無い。集合昼食後、Lより、今日の作業について概略説明を受け、ドウダンツツジ140本の植栽を行う作業上の注意の要点を受説、参加者の到着を待つ。

バス7台に分乗の280名が到着。園内湖岸降りり口付近で、学校側と財団の挨拶、我々の紹介と手早く進む。

280名を40人単位で区分けの7班体制に分けられて、インストラクター4人財団3人計7名で各班を担当。

##### \* 本日のポイント\*

:二人で一本の植栽 道具=スコップを使用

:掘った石は持ち帰る、指導は班長が行う

1. 各班の班長に植栽の重要ポイントを実レクチャー
2. 各班に植栽木とスコップ、肥料を配布
3. 班単位で現場に出発=湖岸のひな壇の所定場所に到着
4. 現場幅2米弱、長さ15米、班単位40名が入る



作業開始後、狭い範囲に40名、ごちゃごちゃの状態、植栽開始、穴掘り、培養土を入れる、直立確認、固める、こんな単純作業がまともに進まず、声からして右に左に動き指導、植栽を行う。現場は、整備されているが、大小の石が混在している、ヨシの根が張って穴掘り出来ず等、穴掘りも大変であった。何とか時間内で終了後、現場最後の確認、植栽根元の土盛り、踏み固め、のスコップの置き忘れ確認、怪我も無く14時40分過ぎに作業終了。全員終了後、挨拶を受け高校生帰校した。全員満足感

の雰囲気を感じた。財団スタッフに挨拶後、反省会開く。

反省点:狭い現場で、40人も入っての作業がスムーズにはこぼない点を今後、如何に行うかが課題。

(記&写真 鈴木 松弘 5期)

#### ◆ 富士通エフ・アイ・ピー株式会社 (森林再生イベント)

日 5月10日(土)10:20~12:30、晴れ

場 富士通FIPの森(活動林)山北町世附

参 大人 50名

県 亀田課長

イ L久保⑧、竹島③、高崎④、森本⑤、相馬⑤、  
伊藤⑦、坂齋⑦、村井⑨、小沢⑨、

担当の秦野様の進行により絶好の日和に恵まれ活動がスタート。本日のメニューは間伐体験班、丸太筋工(土留め)作り班、自然観察班の3グループに分かれて行われた。

各班が1回目の間伐、丸太筋工作りを行ったあと2回目の体験作業として間伐班の一组は丸太筋工作りへ、もう一つの間伐班(役員グループ)は自然観察(小菅沢の枕状溶岩)へと引き継がれた。

メニューの数と班体制が入っている為、スタート時に行う間伐用の選木やロープ架けはお客様が到着する前に準備をした。なお参加された全員にコースターをお持ち帰る予定が有り。

チェーンソーを使用しインストラクターがコースターを作成。参加された皆さんも、次々と違うメニューを楽しくこなされた様で間伐、丸太筋工作りもヒヤリハットも無く無事終了、枕状溶岩の自然観察グループも好評のうちに終了しました。今回の作業内容において間伐作業のみは時間の短縮や作業を要約するという事は安全重視の観点からも見ても、今後の打ち合わせ時に検討課題として残った部分であった。

(記 小沢 章男 9期)

#### ◆ 鶴岡八幡宮・槐の会 (森林づくり)

日 5月11日(日)8:30~16:00、晴れ

場 やどりき水源林フィールド

参 槐の会85名(大人75名、子供10名)

県 増田様、十鳥様

イ L高崎④、谷津⑦、若林⑦、草野⑧、小沢⑨、  
時田⑩、山下⑪、福島⑪、安井⑫、古前田⑬

心配されたお天気も雲ひとつなく晴れ渡り、穏やかな暖かい絶好の活動日和に恵まれ、新緑の中で各班に分かれて森林活動を行った。

(午前) 延寿の森で6班に分かれ作業を行った。

① 間伐班(1班)は担当インストラクターによる説明後、ヒノキ1本の間伐・玉切り・枝はらい等を実施。伐倒時には当日参加者全員に見学していただいた。

② 林内整備班(2班)は延寿の森から林道までの経路の整備をしたほか、林内の小枝などを集めたアニマルヘッジづくりを実施。

③ ベンチづくり班(3班)は間伐材を利用した〔丸太ベンチ〕3台を作った。

(午後) 森林癒し散策班とクラフトづくり班に分かれて活動した。

① 森林癒し散策(4班)は癒しの森でのハンモックとせせらぎの音を体験。延寿の森での樹冠のゆらぎ、滝郷の滝での呼吸法等による非日常体験を味わってもらった。

また散策後、アロマサッシ(匂い袋)づくりも行った。

② クラフトづくり班(2班)はムクロジの実などを使った根付け(携帯ストラップ)制作を行った

高齢者・子供など多様な参加者のため、活動内容に工夫を凝らしたので、参加者に十分満足頂き、無事に活動を終えることができました。

(記 草野 弘 8期)

#### ◆ 県民参加の森林づくり (除伐・枝打ち)

日 5月25日(日)8:30~13:00、晴れ

場 南足柄市塚原

参 82名(申し込み105名)

県 稲垣森林再生課長

財 内海課長、鳥海様 看 青木様

イ L小野⑦、井出①、石原③、柏倉④、白畑⑦、武者⑦、松村⑧、内野⑨、水津⑨、園田⑨、辻村⑨、後藤⑩、松山⑩、波多野⑪、澤村⑫、焼尾⑬  
研修) 源島⑬、菌田⑬

早朝の曇りも、集合時間にはすっかり明るくなり、今年度初回の県民参加の森林づくりは、天候に恵まれた。集

合時間ぎりぎりの開成駅着の小田急線を待ち、参加者・インストラクターも班ごとにマイクロバスに分乗。新緑の美しい林道をぬって現地へ向かう。

各班3、4名の欠席があったものの、年度始めにふさわしく、はじめての参加者、慣れた参加者がバランスよく参加。作業場前には十分な広さがあり、顔なじみの参加者同士が、元気な姿を笑顔で再会を喜ぶ場面も。開会式にて「本年度もよろしくお祈りします」と内海課長からの挨拶、続いて稲垣森林再生課長から、本活動が全国植樹祭の一貫であるご説明の挨拶もいただき、参加者の皆様もやる気十分。募集は除伐・枝打ちという案内であったが、安全のため枝打ちに専念する旨、小野リーダーからガイドダンスされた。

すべりやすい足下に注意しながら班ごとに現場へ。13年生のヒノキ、旺盛な枝が林床への光を遮っていた。枝打ちが進むにつれて、明るくなった森に達成感を味わいつつ、疲れも忘れるほど作業のはかどる班が多かった。

昼食は班ごとに。参加者・インストラクターが自由なテーマにて談話する、という今年度からの初の試みとなる形式。参加者一人一人が森林づくりへの想いを語る班もあれば、インストラクターが枝打ちの効果、水源林の役割を解説するなど、自由で会話の弾む昼食となった。

帰路も班ごとにマイクロバスに分乗、バスで寝てしまう参加者も。13:00過ぎには開成駅へ到着し無事解散。事故も無く、参加者・関係者皆様にとっては充実した一日となったことであろう。

(記 焼尾 徹 13期)

#### ◆ 29回トヨタプリウス森木会パートナー林活動

##### 丸太ベンチづくりと水源林涵養、癒し体験と水生生物観察

###### ○ 一日目

- 日 5月24日(土)10:00~15:30、晴れ  
 場 やどりき水源林 プリウスの森他  
 参 トヨタプリウスのお客様(大人21名+子供5名)  
 県 増田様、坂井様  
 スタッフ 金子部長、黒澤室長、佐藤係長他7名  
 看 萩原様  
 イ L 福島⑪ 井出① 高崎④ 森本⑤ 若林⑦ 村井⑨ 時田⑩ 門澤⑫  
 トヨタプリウス神奈川のお客様を迎えての、森の学校。

各日、Aグループ、Bグループに分かれ、午前、Aグループは丸太ベンチ作り、水源林涵養を学び、Bグループは癒し、水生生物観察を体験。午後、AグループとBグループが入れ替わり、参加者すべて、やどりきの素晴らしさを体験。

丸太ベンチ作りグループは、準備体操を行いヘルメット、間伐ノコを身に着けプリウスの森へ移動。道すがら、これから作るベンチのサンプルを見ながら自分達で作るベンチをイメージしてもらう。

現場では、間伐材を集め、鋸を使っての加工方法、かすがいでの固定方法、丸太に溝を作る方法等学び、ベンチの製作へ。各グループそれなりに上手に出来上がり、満足顔で、記念撮影。戻る途中、岩からしみ出た水滴を見、森の働きを知り、模型を使っての水源林涵養機能の説明を受ける。

(記 門澤 勇 12期)

###### ○ 2日目

- 日 5月25日(日)10:00~15:00、晴れ時々曇り  
 場 やどりき水源林 プリウスの森他  
 参 トヨタプリウスのお客様(大人30名+子ども18名)  
 県 武田様、星様  
 スタッフ 島田部長、黒澤室長、佐藤係長他7名  
 看 萩原様  
 イ L 福島⑪ 宮本④ 高崎④ 森本⑤ 若林⑦ 山崎⑦ 山下⑪ 門澤⑫

いよいよ夏到来を思わせる陽気であったが、時折雲も見せてくれ、暑さも気にせずさわやかな水源の森での1日であった。

毎回熱心な参加者の多い、第29回と歴史のあるプリウス森木会の活動で、参加者は、家族でお子さん連れが多かった。6グループに分かれて、それぞれの活動にインストラクターがもれなく指導にあたった。全体セレモニー後、各グループごとに、準備体操と作業準備を行った。活動内容が豊富なため、午前と午後3グループずつプログラムを入れ替えて行った。

Aグループはプリウスの森にて、間伐材の丸太ベンチづくりを行い、水源林涵養機能の解説も行った。

Bグループは三つの癒し体験後水生生物の採取をした後観察をした。少々水は冷たかったものの観察ビンゴは盛況であった。昼休みには、ロケットラワン飛ばしも行

い、作業後は香り袋も作ってもらい香りのおみやげもできた。リーダーを中心に事前の打ち合わせを十分行ったため計画的に円滑に進めることができた。

(記 山下 剛史 11期)

#### ◆ かながわ家づくりフェア2014

日 5月31日(土)9:30~16:30、晴れ

場 横浜産貿ホール・マリネリア

参 95名

県 森林再生課 県産木材グループ 鈴木様、江口様、伴様 他

イ L中島⑨、斉藤⑬

本フェアは、神奈川新聞社とかながわ木づかい推進協議会主催(事務局:県森林再生課)の住まいに関するイベントです。

我々インストラクターは木育の観点から子供向けどんぐりクラフトのコーナーを担当。参加者が木の台座にどんぐりや木の枝などを取り付けて、木の実のオブジェを作ります。どんぐりにペンで顔を描く皆さんは真剣です。できました！と完成した作品を見せてくださるお子さん達、楽しかったですと帰り際にお声掛けくださる大人の皆様、たくさんの方の満足そうな笑顔に出会えました。

会場周辺で呼び込みをしてくれた「しずくちゃん」の協力もあり、用意した100個のクラフトの内、95個が参加者の元へ。

昼休みに県庁・本庁舎でのグッズ販売(担当:米本さん②、大塚さん⑪)会場に行きましたが、こちらは炎天下での活動でかなりきつそうでした。外は5月とは思えない真夏の暑さでしたが、クーラーのきいた室内で、事故やトラブルも無く楽しく活動できました。

(記 斉藤 夏葉 13期)

#### ◆ 横浜市立中山小学校

(林業体験)

日 6月4日(水)10:30~13:00、曇り時々晴れ

場 相模原市緑区 長竹承継分収林

参 70名(小学5年生63名…6班編成、教師他7名)

財 古舘様

イ L松山⑩、井出①、小野⑦、阿部⑧、小川⑬、菌田⑬

薄曇りで時々太陽が顔を出す好天に恵まれインストラク

ター6名は、9時30分に長竹承継分収林下に集合、身支度・打合せの後、班別に道具を準備する。10時30分に児童達が到着、挨拶の後児童達の身支度を手伝い、作業現場に向かう。途中、松山リーダーから全員に下草の状態を見ながら人工林育成の為に間伐の必要性について説明があった。

今回は、現場で児童達と間伐の必要性などを説明しながら対象木を選木し、ロープ掛けの後間伐鋸で切り始めた。小学5年生のため、男女共非力で鋸を引くのに大汗をかきながら交代で作業し、追い口を切り終え皆でロープを引き木が倒れた時には、歓声が上がりました。

枝打ちは、貸与された鋸でおっかなびっくりの作業でしたが怪我なく無事終了。玉切りをしてからのコースター作りで一苦労しましたが何とか時間内に人数分切り終わりました。各自のコースターの皮を剥ぎ匂いを嗅いだ笑顔が印象的でした。この経験が将来何かに役立つ事を願いつつ13時に終了となりました。

(記 菌田 栄哉 13期)

#### ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>



投稿概略フォーマットと略語の説明

日: 日付(できれば時間と天気も)

場: 場所

参: 参加者

県: (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)

財: ((公財)かながわトラストみどり財団) 看: 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合・XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ: インストラクター(○数字:期) 研: 研修枠

(以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)

## やどりき水源林 ミニガイド

### 6月のトピックス

#### イワガラミ

(また、ツルアジサイも咲いていました)



6.22.撮影(管理棟近く)

### 7月の水源林

夏です。気持ちの良い川遊びができます。カジカ(蛙も魚も)も鳥も昆虫も待っています。都会からこんなにも近い所に別世界が広がります。

### 「森の案内人」情報

●実施時間:毎週土曜・日曜・

AM10時・PM1時, 1~2時間程度

●集 合:水源林入口ゲート前

●内 容:森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料

\*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ:(公財)かながわトラスト

みどり財団 TEL:045-412-2255

携帯:090-8580-5348

FAX:045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

●E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35~40 分。  
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

## イベント情報 & ご案内

### “企画展示「大工さんの工具箱 -きる・けずる・たたく-」(川崎市)

開催日:7月1日~11月30日

■展示解説: 7/13、8/24、9/28、10/26、11/30  
14:00~14:20

■映像上映会:7/13、7/20

【開催場所】

川崎市立日本民家園(多摩区枳形7-1-1)

URL <http://www.nihonminkaen.jp/>

民家を建てるのに欠かせない道具の一つが、大工さんの使う道具です。今回の展示では、きる・けずる・たたくといったさまざまな使い方の大工道具を、分かりやすく展示します。

### ◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保

Mail: [matsutam@jcom.home.ne.jp](mailto:matsutam@jcom.home.ne.jp)

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Tel: 090-6150-6173

Mail: [s\\_akasaki-k\\_instructor@live.jp](mailto:s_akasaki-k_instructor@live.jp)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: [matsutam@jcom.home.ne.jp](mailto:matsutam@jcom.home.ne.jp)

【別冊】水口 俊則

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: [minagold109@kjd.biglobe.ne.jp](mailto:minagold109@kjd.biglobe.ne.jp)

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町 3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

Mail: [2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp](mailto:2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp)

原稿は随時受け付けています。

### 編集後記

★のどと咳の風邪をひいてからもう2週間位経ちますが、治りが遅いです。早くよくなりたいものです。(赤崎)

★梅雨の時期、自宅近くの県立公園ではホテルが見られます!

身近な自然がまだ残っていることに、ありがたみを感じました♪(大塚)

★クマノミズキやヤマボウシなど 緑をバックに白い花がとても鮮やかですね。せつかくの週末も雨模様だどがっかりです。(水口)

★総会時には色々新しい催しや提案、質問等が活発に議論されました、一歩踏み込んで提案する仲間に入って欲しい!!(小沢)

★6/21.1年半振りに「県民参加の森林づくり」行事に我が所属の二宮炭焼き会の仲間12名と参加。

130名程の参加者に混ざり久々に大汗を流し、心地よい半日を過ごせました。なるほど健康ちゅうもんは、やっばえもんですね!(徳岡)

★新しいパソコンにもようやく慣れ、新しい機能も使い始めています。暑い夏は山中で編集しようかな。(松本)

### ◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。

振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人: 松本 保

事務局: 竹島 明

広報部: 小沢章男 水口俊則

鈴木 朗 徳岡達郎 大塚晴子

赤崎さほり 小川和恵 小池 哉

支接

伊藤恭造 川森健司

### 松田付近のイベント情報!!



御殿場線  
松田駅乗車⇔  
山北駅下車

#### “洒水の滝まつり”

7月27日(日)9:45~16:00

滝への道を清める「名瀑おろし」や祭り、太鼓の競演が行われ、本格的な夏の到来を告げます。

散策、ボランティア活動の  
お帰りにお越しください!!  
~ お 食 事 処 ~  
(もちろん冷たいお飲み物も)

## こ ま ち

### 山 麓 の オ ア シ ス ③

小田急 新松田駅  
踏み切り際

緑の募金箱協力店